Rotary
RID2730 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER
3

2020-21 RID2730 ガバナー月信 3月号

2020−21年度RIテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

▼ 春の宵　本田 康文

◀ 桜滝　長井 久美子

▼ 春の天神　竹下 政博

▲ 田の神舞　濵田 米廣

「みんなのフォトコンテスト」より（鹿屋市教育委員会主催）

table of contents

特集 ｜ かのや 戦跡めぐり
「永久の平和を願う　串良基地跡」

1 − ガバナーメッセージ
2 − クラブ管理運営部門からみた、クラブが今なすべきこと
4 − ロータリーリーダーシップ研究会に参加しましょう
6 − 鹿児島中央RCの「RCC」動物愛護活動
8 − クラブ活動報告
9 − 入退会報告
10 − もっと知っとこ RLI

データ版月信
11 − クラブ現況報告
風の便り
米山寄付金傾向
ハイライトよねやま
コーディネーターNEWS
財団室NEWS

※項目によってはデータ更新日に掲載が間に合わない場合があります。

風呂井 敬　ガバナー事務所　〒893-0064　鹿児島県鹿屋市西原1丁目9-10 ホテルさつき苑内　TEL：0994-35-1340　FAX：0994-35-1341
E-mail：furoi2730@po5.synapse.ne.jp

ロータリーの活動分野 ※今年7月には「環境の保全」が加わります。

平和の推進
紛争の予防・仲裁や難民支援に当たる人材を育て、異文化間の交流と対話を促すことで、平和な世界づくりを目指します。

疫病との闘い
命を脅かす病気について正しい知識を伝え、発展途上国で低額または無料の医療を提供するなどして、病気の予防と治療を支援しています。

水と衛生
「ただ井戸を掘って終わり」ではなく、きれいな水や衛生設備を活用して長期的な地域発展が実現できるよう、包括的な支援を行っています。

母子の健康
世界では毎年、5歳未満の子ども600万人近くが、栄養失調、不健康、不衛生のために命を落としています。ロータリーは、質の高い医療によって母と子の健康を守っています。

教育の支援
世界で読み書きのできない人(15歳以上)は、7億7500万人。ロータリーは、より良い学校をつくり、教育における性差別をなくし、成人への識字教育に力を注いでいます。

地域経済の発展
生産的で十分な収入をもたらす雇用の機会の創出を通じて人びとの自立を促し、発展途上地域の(特に女性による)起業を応援しながら、リーダーとなる人材を育てています。

特集

特攻のまち、鹿屋から「戦争を知って、平和な未来を創る」

かのや　戦跡めぐり

永久の平和を願う

串良基地跡

戦時中串良基地では、約５千人の飛行予科練習生が特訓を受け、573名の攻撃隊員が串良基地から飛び立ち、命を落としました。

慰霊塔碑文

「今出撃せんとす　何も思い残すことなし　父母兄姉よ幸福であれ　心爽やかにして大空の如し　こうしているのもあとしばらくです　さようなら」

2本の滑走路
（戦後の航空写真）

串良基地から出撃する
特攻機と見送る女性たち

２つの滑走路跡に沿って、南北東西３km
に渡り、立ちならぶ桜並木。
ドラマ「永遠の0」のロケ地にもなりました。

串良平和公園
場所:鹿屋市串良町
有里4831番地3

戦争体験記（鹿屋市出身　女性　当時９歳）

串良基地の滑走路から飛び上がった飛行機は、我が家の上空をどんどん北の方へ行き、その後志布志湾へ回っていった。この近辺には８歳から20歳くらいの女性が多かったからか、明日沖縄へ出るという特攻隊員がよく遊びに来ていた。女性たちは布切れで人形を作ってあげていて、もらった人形を2、３個ぶら下げた隊員もいた。ある日留守中に実家に兵隊さんが上がって、２人で花札をしていた。投げた札がピタッと止まるのが珍しかった。その二人は夕方には帰っていった。ここの近辺では兵隊さんは時間つぶしに来て、翌日は特攻に出て行った。

鹿屋市平和学習ガイド・調査員連絡会「戦争体験集より」

ガバナーメッセージ

2020-21年度

ガバナー　風呂井 敬（鹿屋西RC）

ロータリーのちからで、世界各地にきれいな水をもたらしましょう

3月 Mar

水と衛生月間

会長・幹事の皆様、コロナも収束しない中いかがお過ごしでしょうか。今年度も早いもので残り４か月を残すのみとなり、井福ガバナー年度へ向け、地区チーム研修セミナー、会長エレクト研修セミナー（PETS）そして地区研修・協議会が開催される時期となりました。クラブに於きましても次年度への準備が始まる頃ですが、残された４か月間、年度計画を確認しながら締め括って戴けたらと思っております。

さて３月は水と衛生月間となっておりますが、

３月22日は何の日かご存知でしょうか。1992年12月に国連総会で定められた「世界水の日」であります。水がとても大切であること・きれいで安全な水が使えることの重要性について、世界中の人々と一緒に考える為の日です。また、2014年10月RI理事会は３月を重点分野：「水と衛生月間」としました。地域社会における安全な水の公平な提供、衛生設備や衛生状況の改善、持続可能な水設備と衛生設備の設置、資金調達、維持管理を地域住民が行っていくための能力向上等を強調する月間でもあります。きれいな水を利用できることは基本的な人権です。しかし世界には、適切な衛生設備を利用できない人が25億人、安全な飲み水を得られない人が７億4,800万人。さらに毎日1,400人の子どもが、劣悪な衛生環境と不衛生な水を原因とする病気で命を落としています。このような現状を受け、ロータリーは世界各地できれいな水をもたらすための多くのプロジェクトを実施しています。例えばガーナでは、ロータリーの補助金を活用し、会員が複数の村に20以上の井戸を設置したほか、30の井戸が修復されました。是非RIロータリーショーケース内の「水と衛星」などから情報を探し出し、財団補助金を活用しながら、人道的奉仕活動にチャレンジして戴ければと思います。

３月13日は世界最初のローターアクトクラブが認証された日となっています。1993年、RIはローターアクト創立25周年を記念して、この３月13日を含む１週間を「世界ローターアクト週間」（World Rotaract Week）と定めました。この１週間には世界中のローターアクトやロータリアンによって記念行事やプロジェクトが行われ、ローターアクトクラブと提唱ロータリークラブが協力して、地域社会でローターアクトを推進する絶好の機会となります。

昨年12月、辰野克彦RI理事招集のもと、ロータリーの未来形成に関する報告及び意見交換会がオンラインにて開催されました。計画の内容は①現在世界に存在する34ゾーンはそのままに、言語や文化等によって地域（リージョン）の区分けを導入、日本は全体で１つの地域とする。②ロータリアンと同等の地位となるローターアクトクラブを加え、日本国内を102のセクションのクラブ群に分割する。③①を統括する地域カウンシルを１名、クラブの選挙で選出、その任期は３年。また②のセクションを統括するセクションリーダーを設置し、その任期は２年。地区及びガバナー制度を廃止し、その代わりに上記の体制を設けるという事です。組織規程の変更となりますので、RI理事会は2022年規定審議会に制定案として提出する予定です。もし採択となった場合、一定期間パイロット地区によるテスト運用を実施し、正式に全世界に導入されるのは10年後の2030年とのことです。現時点（2021年2月）では情報が不足しておりますので、今後のRIからの発信に注目する必要があります。これに関連して、去る２月３日にJoho Hewko RI事務総長、Tom Thorfinnson CSOと辰野RI理事の３人で、ロータリー未来形成（SRF）に関する会合が持たれました。SRF委員会は、各RI理事と個々に話し合い、委員会内でも協議を重ね①ガバナーという名称は残す。②ローターアクターはロータリアンと同じ立場とはしない。③パイロット地域は８つではなく１つか２つにする。④地域カウンシルの権限を明確にする等、まだ１年間位かけて再検討することになったとの事であります。

最後になりましたが、これから本年度末までの４ヶ月間は、当初の方針をもう一度振り返る大切な時期となります。次年度への引継ぎをしっかりとして戴き、有終の美を飾って戴きたいと願っております。

クラブ管理運営部門
部門長　**古木 圭介**
（鹿児島西RC）

コロナ禍の今だからこそ　Family Spirits

クラブ管理運営部門からみた、クラブが今なすべきこと。

地区はあくまでサポート役であり、それぞれのクラブが主役です。

コロナ禍の今、クラブ例会やクラブリーダー育成の為の研修が中止になっていますが、こういう時だからこそクラブ内の結束、すなわち家族の精神「Family　Sprits」が求められています。今回はクラブ管理運営部門長の古木氏にインタビューをおこない、どうすればロータリアンはコロナを乗り越え、クラブをさらに活性化できるかについて探りました。

ホルガー・クナーク2020-21年度 RI会長テーマ：「ロータリーは機会の扉を開く」
風呂井敬ガバナー地区スローガン：「不易流行･ロータリーの基本を堅持し、変化に適応するクラブを」

原点回帰

コロナは、ロータリーの役割や課題をあぶりだし、存在意義を見つめなおす機会を作ってくれました。クラブ運営について迷ったら、今だからこそ原点に立ち返って考えることが大切です。

親 睦

ポールハリスの原点は、仲間同士を助け合うことから始まりました。コロナ禍にあっても、親睦と相互扶助により、まずは退会者を出さない事が最優先事項です。

奉 仕

ロータリーの原点は、劣悪なシカゴの衛生環境にあって公衆トイレを作ったように、職業奉仕と社会奉仕にあります。「奉仕の精神」でコロナ禍の世界を救いましょう。

Family Spirits

コロナ禍と貧困・紛争を乗り越え、ロータリーの目指す世界平和を実現するには、
家族への愛、社員への愛、社会への関心と貢献（愛）、世界への関心と貢献（愛）が求められます。

Family Spritsを胸に、地域社会や世界に貢献するための目標となるのが、現在国連が提唱し、世界中の企業・行政・教育機関で取り上げられるSDGsです。
【SDGs=Sustainable Development Goals　持続可能な開発目標】
この目標は、ロータリーの５大奉仕や重点分野とともに、各クラブが戦略計画を立ててテーマを選択し、奉仕活動をおこなううえでの具体的な指標となるでしょう。

SDGsとは、国連の持続可能な開発のための国際目標であり、17のグローバル目標と169のターゲットからなる。2015年９月の国連総会で採択された『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』と題する成果文書で示された2030年に向けた具体的行動指針である。

■地域平和＆世界平和　実現させるために大切なこととは…

国際化への対応

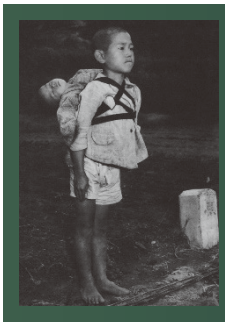
国際奉仕のロータリーは世界中の仲間と繋がることにより、SDGsに掲げるテーマの中から、世界各地の課題を見つけることができます。私たちはロータリアンだからこそ世界を変える力が備わっています。

情報化への対応

RIテーマやビジョン、地区ガバナーのスローガンを念頭に、世界やロータリーにおける正しく質の高い情報を、地区➜各部門・委員会➜各クラブ会員へと周知することが求められます。

人材育成

クラブ会員にロータリーを学ぶ機会を積極的に提供しましょう。RLIへの参加促進と、クラブ内での学習会の企画が求められます。そして青少年部門において若者たちと積極的に関わることが大切です。



左の写真は終戦直後、命を落とした妹の遺体を背負い、火葬の順番を待つ少年を写したものです。ユニセフの分析によると、コロナ禍の経済危機により、世界中の貧困の子供が8600万人増加する恐れがあるとしています。南アジア、アフリカそしてヨーロッパでさえも貧困が深刻な問題になっており、やがて貧困は犯罪や紛争の火種にもなります。兄妹の写真を教訓に「日本も同じ境遇になる日がくるかもしれない」という危機感を持ち、歴史の悲劇を繰り返さないように、それぞれのクラブ、そして個々のロータリアンが行動を起こすときが今ここに来ているのです。

■それでは具体的に、「クラブ運営に必要なこと」を述べて参ります。

クラブ奉仕の充実

クラブ会長・幹事・会計・SAA・親睦・出席・プログラム委員が積極的に学び、心を一つにしてクラブを盛りあげ、楽しく充実した質の高い例会を開催し、奉仕の心を実践できるクラブにすることが大切です。

クラブ戦略計画の推進

長期的なクラブの方向性を見出す為に、クラブの戦略計画を早急に確立しましょう。戦略計画の立て方については、成功・実現させているクラブを卓話などに招いて、アドバイスをもらいましょう。

クラブリーダー養成研修

「クラブ奉仕」を活性化させるためには、クラブの会長・幹事をはじめとしたクラブリーダー達が、常に最新のロータリーの情報を深く正しく知る必要があります。そのための機会を作るのがクラブリーダー養成研修です。

CLPの充実

クラブはCLPに基づいて組織しましょう。地区はDLPで組織されている為、CLPに基づくクラブは地区と親密で適切な連携を図ることができます。地区はクラブのサポーターにすぎません。主役であるクラブは、CLPによる機能的で分かりやすい運営を心掛けてください。

RLIへの積極的な参加

クラブリーダーを養成するにあたり、クラブはRLIへの積極的な参加を促しましょう。ロータリーは各地域における資質の高いリーダーたちが集まる団体です。世界を変える行動人になる為に、RLIへの積極的な参加により、ロータリーを深く知り、考え、地区内でたくさんの仲間を作りましょう。

クラブ運営に、強力なリーダーシップを！

現在の苦しいコロナ禍にあって、「ロータリーとは何か？」をじっくりと再考して、クラブをよりよい方向に導くチャンスが与えられている今だからこそ、クラブ運営には強力なリーダーシップが必要です。それには会員の学びと親睦を促して、「ロータリーをやめたくない」クラブづくりを心掛けることが大切です。会員同士が手を差し伸べてお互いを守ってください。120年前に設立したロータリーの原点をもう一度見つめなおしましょう。そして大きな変化にも耐えうる力強いクラブにしてください。それこそが風呂井ガバナーが提唱する「不易流行」の実践です。

RLI委員会　委員長
山下　晧三 PG
（鹿児島西RC）

声を大にして伝えたい「RLIって、素晴らしい！」

RLI=「ロータリーリーダーシップ研究会」に参加しましょう。

「RLI（アールエルアイ）って何ですか?」新入会員からこう聞かれた時、先輩の皆様はきちんと説明することが出来ますか?今回はRLIの目的やその魅力について、一から分かりやすくご説明いたします。新入会員の方・入会まもないロータリアンの方も必見です。

「RLI」って、何ですか?

RLIをひとことで言えば、「ロータリーを語ろう会」です。８名程度を一組にして、ディスカッション形式で参加者たちがロータリーへの想いをそれぞれ率直に語り合います。皆が同じ目線に立って意見を述べ合い、それぞれのクラブやロータリアンには様々な考え方があることを知る、いわばクラブを超えた「ロータリアンの出会いの場」です。

具体的にどういう事をするの?

RLIは、パートⅠ～パートⅢ（それぞれ丸１日）を、１年かけて通します。初心者も経験者も、どのパートから受講されても結構です。それぞれのパートにはテーマが設定されており、テーマに沿ってディスカッションをおこないます。受講者には受講前に資料が配布されますので、それにひととおり目を通してからRLIにご参加頂くようになっています。

RLIの、どこが素晴らしいの?

RLIの素晴らしいところは、「たくさんの人と、様々な考え方」を短時間で手っ取り早く知ることができるところです。各パートの１日のうちでは、６つのセッションが行われますが、そのつど席替えを行うため、ロータリアンとアイデアに沢山出会う機会があるのです。これまでクラブがメインであった交際の範囲は、地区へと一気に広がるでしょう。

受講前に勉強しないといけないの?

「ロータリーの事を勉強しなければならない」と身構えるのではなく、まずは気軽にRLIに参加してみましょう。ロータリーの学びは先輩・後輩関係なく一生続きますが、まずは色んな人と出会い、そこには様々な意見・考え方があることを知ることで、ロータリーやロータリアンに対してより興味が湧くことでしょう。興味が深まれば、自ずと理解が深まります。

新入会員が参加してもいいの?

もちろん新入会員・大歓迎です。RLIは、ロータリアンの多様性を体験することにより、ロータリーに深く興味を持っていただくという機会です。分からないことは「分かりません」で結構です。その場で質問しましょう。あれこれ考えるよりも先に、少しの勇気とともにRLIに参加してください。

一回受講したらもう終わり?

いいえ。ロータリーには常にたくさんの出会いがあり、ロータリーの学びに終わりはありません。常に若くて優秀なロータリアンたちが入会しますし、ＲＩからは最新の時代の先駆けとなる情報がもたらされます。RLIの受講が終了したら、今度はディスカッションのリーダーとして活躍しましょう。

RLIの受講が終わったら、今度は「ディスカッションリーダー（DL）」になりましょう。

「DL」って、何ですか?

DLとは、８名程度でディスカッションを行う時の、リーダー（進行役・まとめ役）の事を言います。リーダーといっても、上の立場から受講生の方々を指導するのではありません。受講生たちがロータリーへの想いを平等に、そして素直に述べることが出来るよう、交通整理をする役目を担っています。あらゆる議論が受講生にとって心地よく、楽しく、そして実りあるものにするためのコーディネーターです。

DLになると、良い事あるの?

DLはディスカッションの交通整理をおこなう中で、沢山のロータリアンと出会い、新しいアイデアを聞く機会が与えられます。ディスカッションのリーダーでありながら、受講生と共に成長することができます。RLI開催の度にリーダーを担うことで、「ロータリーとは何か」ということを常に見つめることが出来るでしょう。RLIをパートⅢまで受講し、DLの為の研修を受ければ、DLになることができます。

本来はロータリアンであれば、どなたでも何時でもRLIにご参加頂けますが、新型コロナウイルスの影響が収束するまでは、RLIが開催されたとしても「密」を避ける目的で受講者を限定させていただく場合がございます。

「RLI、おすすめします。」 参加者たちの声

塚田　正徳 さん
（宮崎RC）

RLIのディスカッション

8名程度一組で行われます

「塚田さん、RLIを受けて下さい」と言われ、研修を受けるのがあまり好きでない私は受講することに少々のためらいがありました。研修会場が近いこと、その日はスケジュールも空いていたので「まあいいか」と受け身の感じで受講することにしました。研修は３回に分かれていてどの研修から受講してもいいとのこと。最初の研修は、パートⅡから始めることになりました。事前にテキストをいただき、読みながら最初に感じたことは、各セクションのテーマをDL(ディスカッションリーダー）は、どうまとめていくのか大変興味を感じました。そして研修当日、時間割や参加者名簿を見ると、１クラスが10名前後で組織されており、所属クラブも偏りなく構成されていました。
いざ研修を受けると、ロータリーの研修のほとんどが一方通行でただただ受講者はテーマに沿って聞くだけの研修が多い中、RLIは研修と言うよりも、「テーマに沿ってお互いのロータリーに対する想いを話す機会の場なのだ」と感じました。
RLIのすばらしいところは、RIの考えと関係なくロータリーへの想いをディスカッションできる事、他クラブの方々と情報交換ができる事、一方通行の研修ではなくロータリアンとしての自分自身を考えるいい機会だと思いました。その後４年かけてパートⅠとパートⅢを受講し、令和元年研修を終了。DLの皆様方には大変お世話になりました。最後に未受講の方がおられましたら是非参加されることをお勧めします。研修嫌いの私が、楽しく研修終了できましたので。

野田 真由美 さん
（枕崎RC）

中山　留美 さん
（枕崎RC）

2018年第６期、パートⅡよりの受講です。枕崎RCはその当時RLIへの参加に消極的で、私が受講したきっかけも会長という役職の使命感と、当時入会２ヶ月ながら『受講してみたい！』という中山会員（写真右隣）の引率のつもりでの受講でした。朝から夕方までびっしり詰まったセッションに不安と緊張を感じつつも、各クラブの現状や課題、ロータリーをこれから体感しようとする新入会員の疑問、それに対して諸先輩方からのアドバイスや貴重な経験を伺えるというRLIは、ロータリーを知り、ロータリアン同士を繋ぎ、絆を強固にする為の素晴らしい場なのだと感じています。まだまだ未熟者の私がDL研修まで受講という思わぬ展開ですが、このコロナ禍を乗り越え、再びロータリアンの皆様とRLIにて笑顔でお会いできる事を祈るばかりです。

私は、RCに入会して２ヶ月でRLIに参加しました。入会前は仕事場と自宅とを行き来するだけで、ほとんど異業種の方々と接する機会もなく、RC自体を理解していない状態でしたが、当時の会長、野田会員よりお話を頂き『ロータリーを学ぶいい機会だ!』と思い参加させて頂きました。初めは分からないことばかりで、只々皆さんのお話を聞いているだけで楽しく、一日の研修もあっという間に終わり、『RLIはロータリーを学ぶ一番の近道かな』と思い、是非次の研修も参加したいと、あっという間にDL研修まで受講させて頂きました。RLIは他クラブとの情報・意見交換の場であり、異業種の方の意見や考え方にはとても興味が湧きます。RLIに参加したことで一番に良かった事は、沢山のご縁が広がったことです。また参加して考える力・学ぶ楽しさを知りました。そしてロータリーがさらに楽しくなりました。私にとってRLIとは、人と人をつなぐ大切なワクワクする場所です。

NPO法人犬猫と共生できる社会をめざす会鹿児島
代表　**杉木　和子**

シリーズ 活動あれこれ「犬猫との共生を目指して」

鹿児島中央ロータリークラブ　「RCC」 動物愛護活動

鹿児島中央ロータリークラブは、NPO法人「犬猫と共生できる社会をめざす会　鹿児島」のスポンサークラブであり、動物愛護を推進しています。現代では児童虐待が大きな社会問題となっておりますが、児童虐待と動物虐待は大きな関連性があると言われており、「動物虐待者は、動物虐待歴のない人に比べ、人に対する暴力犯罪を犯す確率が5倍高く、また窃盗罪を犯す可能性は4倍高い(※)」という研究結果もあります。
動物愛護活動は、動物をいたわるのみならず、人間と動物が共生して「やさしい社会」を築くうえでの大切な奉仕活動であることを踏まえて、当NPO法人代表の杉木和子氏に、活動内容や鹿児島中央RCからの支援についての取材をおこないました。

(※1997年マサチューセッツ動物虐待防止協会と米国ノースイースタン大学の研究結果)

特定非営利活動法人
犬猫と共生できる社会をめざす会 鹿児島
鹿児島中央ロータリークラブ提唱　RCC犬猫と共生できる社会をめざす会

スローガン　動物愛護の精神に則り“人と犬猫がパートナーとして共生していけるやさしい社会・捨犬・捨猫のいない地域社会”の実現をめざしましょう。

活動の目的　長い人間の歴史の中で常に傍らにいて、さまざまな恩恵を与えてくれた犬や猫達。しかし今社会の変革や人間の身勝手のため、多くの犬や猫達が苦しんでいます。そしてそんな社会が人間自身をも不幸にすることが明らかになっています。そこで、彼らともう一度より良い関係を持ち、共に生きていける社会の実現をめざして私達はこの会を発足致しました。

人間にもっとも身近な動物である「犬と猫」が平和に安全に暮らせる社会は、きっと「人にも優しい」はず。

ロータリーとの出会い　私たちは平成11年に想いを同じくする女性数名で任意団体「動物の命を守る会」を立ち上げ、そして結成10年目にして現在の「NPO法人犬猫と共生できる社会をめざす会　鹿児島」として活動を本格化させました。この活動に理解を示してくださる西本願寺の別院に私たちのポスターを掲示させて頂いたところ、鹿児島中央RCの海江田順三郎様がポスターに目をとめてくださり、「小さい命を守る活動はやさしい社会づくりに欠かせぬこと。クラブをあげて活動を支援したい。」という温かいお言葉をかけてくださったことが、鹿児島中央RCの「RCC」活動としてサポートを頂くきっかけとなりました。

ロータリーからのご支援　鹿児島中央RCの皆様からは様々なかたちで活動のご支援を頂いております。▶メインの活動となる「犬猫の里親を探す譲渡会」には、数名のロータリアンの方がその様子を見守ってくださり、スマイル募金を頂いたりしています。過去にはロータリアンの方に猫の里親になって頂いたこともありました。譲渡会へのご参加はロータリーの例会出席のメークアップ対象にもなっているそうです。▶私たちは活動の資金集めとしてチャリティーカレンダーを作成しておりますが、ロータリアンの皆様は毎年120部ほどカレンダーを買ってくださいます。▶ロータリアンの皆様からは、ペットマンション設計や猫のご近所トラブルについての相談を頂いたこともありました。私たちが催し物を企画する際は、ロータリアンの皆様が前もって他団体に話を通してくださることもあります。▶私たちはロータリアンの皆様との定期的な例会はおこなっておりませんが、その代わりに「譲渡会報告」という報告書にてロータリーの皆様に活動報告をおこないます。私たちは時折ロータリークラブの例会に招かれて、卓話にて活動の報告をさせて頂くこともあります。そして年度活動報告・会計報告がおこなわれる私どもＮＰＯ法人の年次総会にはロータリアン数名の方に出席して頂いております。

小さい生命との共生　活動の成果

①犬猫と共生するため正しい知識の普及を図っています。飼い主のマナー及び飼育のための知識の向上に努めます。望まれない「命」の誕生防止のため、避妊・去勢の啓発及びその実施・助成をしています。

▶これまでに会で行った**不妊手術数＝13,536匹**です。

②犬猫譲渡会を定期的に開催しています。

▶これまでに**飼主が決まった犬の数＝875匹、猫の数＝4066匹**です。（2021年２月５日時点）

③「動物の愛護及び管理に関する法律」を実効あるものとするための活動を行っています。

④行政や関係諸機関と連携しての活動や提言を行っています。

里親探しの活動　私たちは月に最低３回程度の頻度で、犬猫の里親を探す譲渡会をおこなっており、諸事情により犬や猫を飼えなくなったご家庭と、新たにペットを飼うことを希望されているご家庭を繋いでいます。基本的に犬や猫は譲渡会の当日に仮に引き渡しますが、まずはペット希望のご家庭に１週間ペットを「ホームステイ」させる形をとり、その後その家庭は預かったペットを飼えるかどうかの判断をします。（その時点で判断できない場合は、ホームステイ期間を延長することができます。）そのご家庭がペットを飼えると判断した場合は、「里子証明書」を発行し、そのペットに新しい名前が付けられ、その時点で正式な引き渡しがおこなわれます。

■引き渡しの際に一番大切なことは、そのペットに避妊･去勢手術を受けさせる約束をすることです。まず引き渡しのときに新しいご家庭から預り金を頂いて、後日ペットに手術を受けさせたときに発行される「獣医師の証明書」をそのご家庭から提示して頂いた時点で、預り金を返却するという仕組みになっています。

不妊手術への啓発と助成　動物と人間が幸せに共生するうえでのもう一つの大切な活動は、不妊手術への啓発と助成です。具体的には各地域の野良猫たちにTNR活動（※）を施しています。

※TNR活動（■Trap➜ 野良猫捕獲　■Neutew➜ 不妊手術　■Retern➜猫を元の場所に戻す）

不妊手術を施す猫の耳には、手術中に小さく「Ｖカット」を入れることで、手術が済んでいることが一目で分かるようにしています。この活動を繰り返して野良猫たちの頭数を減らすことが、野良猫のご近所トラブルや動物たちへの虐待防止、さらには保健所で処分される頭数の減少に繋がります。この活動は離島を含む県内で展開しており、ときおり多頭飼育崩壊から動物たちを救うケースもあります。このTNR活動を継続するために、不妊手術の依頼主に費用を助成したり、この活動に理解を示してくださる獣医師の皆様のご協力により、不妊手術を割安で手術して頂いたりしています。さらに定期的に「しっぽのある天使達犬猫写真展」を開催したり、動物たちのカレンダーを販売して、経費を除く収益金を活動に充てることで、TNR活動への啓発と助成をおこなっています。この活動の甲斐もあり、屋久島町からは「保健所に持ち込まれる猫が激減した」「道路で轢かれる猫を見なくなった」との評価をいただいおり、県本土においても同様の成果が得られ始めています。

これからもこれらの活動を継続しておこなう事が、犬猫と共生できる社会に繋がり、結果として社会の弱い立場である子供や女性が安心して生活できる地域社会の醸成にも寄与すると考えております。

❖クラブ活動報告

西都RC

院内クラスターが発生した病院に、励ましのメッセージカードを添えて、どら焼きを送りました。

2021年1月21日
都城市郡医師会病院

宮崎県でもコロナウイルスが猛威を振るう中、都城市で中核となる医療施設・都城市郡医師会病院の先生から1通のメールが届きました。その内容は「医療現場はまさに戦場であり、職員達は使命感のみで働いています。支援を受けたいが方法がわかりません。」この病院では宮崎県で初の院内クラスターが発生したのです。メールの内容から危機感を感じ、その日のうちにクラブ会長・幹事で打ち合わせを行い、翌日にはzoomを利用して理事会を開催し、病院職員の方々へ心のこもった迅速な支援をすることを決定しました。後日zoomのクラブ例会にてクラブ会員全員へ支援の内容を説明・賛同を得て、西都市の和菓子店『水野屋』の【どら焼二個セット】500個を贈呈致しました。
どら焼にはクラブ会員による手書きの心のこもったメッセージカードを添えました。

贈呈式にはお忙しい中、副院長始めコロナ病棟の看護師長など、多数の病院関係者の方々にご出席頂きました。のちに聞いた話によると、私たちの書いたメッセージを読んで、涙を流された職員様もおられたとの事でした。コロナ禍で活動が難しいなか、zoom例会でスピーディーに動けたことは今後の活動のヒントになりました。また新入会員の方々にはロータリークラブの活動を少しでも身近に感じてもらえたものと思っております。

どら焼きが和菓子屋さんを出発

都城市郡医師会病院

どら焼きが入った段ボール10箱が病院へ

副院長のお出迎え

中野会長から看護師様方へ

鹿児島RC

児童養護施設にサンタクロースがやってきた。
❖地区補助金事業「薩摩の偉人に学ぶツアー」中止変更

2020年12月23日
児童養護施設　仁風学園

コロナ禍の中、不自由な生活を強いられている現状で、子ども達と一緒に巡る「薩摩の偉人に学ぶツアー」は中止となりましたが、養護施設の子ども達がクリスマスは笑顔で満たされる一日になればと思い、子ども達にプレゼントを送り届けました。
寄贈品は、郷土の歴史にまつわる書籍、かるた、DVD、閲覧用モニターとプレーヤーです。
式典は感染対策による人数制限があった為、児童全員に会うことは出来ませんでしたが、中には、親御さんからクリスマスプレゼントをもらったことがないお子様もおられたようで、施設長様からは「子ども達全員、大変楽しみにしていました。」と喜びの声を頂きました。
"子ども達にとってのクリスマスは、特別で素敵な日でなければなりません。"
当クラブ会員から児童一人ひとりに宛てた「クリスマス応援メッセージ」を添えることで、心のこもったプレゼント贈呈となりました。クラブ会員がサンタクロースの衣装を着けての贈呈は、初めてサンタを見たお子様もおられ、子ども達にとても喜んでもらえました。
微力ながらも児童養護施設のお子様方の幸せを願う事業が実現できました事を大変有難く感じております。

鹿児島サザンウインドRC

深まる秋を満喫して、親睦もいっそう深まりました。

2020年11月８日：甑岳登山
2020年11月12日：みかん狩り・乗馬体験

このご時世制約事が多い中、当クラブは自然の中で過ごそうとアウトドアな親睦行事を開催しました。

11月8日(日):山の紅葉を楽しみながら、頂上到着の爽快感は最高でした。下山後白鳥温泉で汗を流し、身も心もホカホカで帰路につきました。

11月12日(木):当クラブ会員が所有するみかん園にお邪魔してのみかん狩り。最高の秋空の元、沢山の実をつけた木をみて興奮気味の参加者。一本の木を丸裸にした人もおり、ワイワイガヤガヤ楽しみました。そのあと、隣接する乗馬施設での乗馬体験をし、青空の下で食べるお弁当は最高でした。遠足気分で楽しいひと時でした。

甑岳

みかん狩り

乗馬体験

❖クラブ活動報告

志布志RC　志布志ロータリークラブ 創立40周年記念事業報告

志布志ロータリークラブは1981年1月6日に串良ロータリークラブをスポンサークラブとして発足しました。現在は、会員数24名で活動しております。
2019-20年度に創立40周年を迎えるにあたって、4月18日に開催予定でありました記念式典および祝賀パーティと記念講演は、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大により誠に残念ではありましたが中止を余儀なくされてしまいました。(4月7日に7都府県、その後4月16日に全国に緊急事態宣言が発出された)
このような状況下ではありましたが、何とか記念事業だけは行おうと、以下の事業を行いました。

①2021年1月1日より志布志市役所本庁舎移転に伴い、案内看板を国道220号市役所本庁下の交差点に設置。
②志布志港フェリーターミナル入口にウェルカム看板の設置。
③ロータリー財団へ、　10万円寄付。
④米山記念奨学会へ、　10万円寄付。
⑤志布志子ども食堂へ、活動資金として10万円寄付。

フェリーターミナル入口の看板

志布志市役所の案内看板

この度、創立40周年という節目を迎え志布志ロータリークラブは今後も会員一人ひとりが、ロータリーの精神に基づいて行動し、地域の発展に貢献していけるよう精進して参ります。コロナ禍で会員増強はおろか例会さえも難しい時期ではありますが、感染拡大防止に留意しながら時代に合った新しい形での活動の仕方、地域とロータリークラブの関わり方や在り方を模索し、50年、60年と継続していけるクラブを作っていけるようメンバー全員で手を取り合って元気に頑張って参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

国分RC　国分中央高校で模擬面接をおこないました。　2020年8月27日 国分中央高校模擬面接

毎年8月に開催される「国分中央高校模擬面接」。平成16年から始まり、今年で早17年目となります。
この事業を始めたのは、当時のクラブ会長、川畑勝志です。当初は50名程度の受講者でしたが、今では就職希望者の9割以上、100名程度の生徒さん達が参加されます。私(報告者)はこの事業に携わってから、5年ほどになります。あくまで個人的な感想ですが、感じたことがいくつかございます。

模擬面接の様子

①学校サイドの積極性
イベント的な活動で、皆さん儀礼的に参加しているのかと思ったら…
私たち国分RCのメンバーもそうですが、国分中央高校の先生や生徒さん達の側も大変積極的に、そして真剣に取り組んでおられ、主催者の私たちは「若者たちの未来づくりに貢献しているんだな」という実感が湧いてきます。

ミーティングの様子

②地元企業の会長・社長・管理職が面接官
同高等学校に求人を出されている会社の社長・管理職の方々も模擬面接官として参加され、実戦さながらの臨場感溢れる中での実施は、生徒さん達にとってとても参考になり勉強にもなる機会ではないでしょうか。
以上のようなことから、「模擬面接」は非常に有意義な活動であると確信しています。又このような活動はロータリーにおける職業奉仕の強みを生かしたものであり、今後も継続していけるよう、会員一同努力して参ります。
金銭的奉仕の社会活動も必要ですが、金銭に頼らずロータリアンの力量と才覚によって若者たちや地域社会に貢献できる事業もまたロータリーの「奉仕の心」の実践であると感じました!!

1月 入会報告　ご入会おめでとうございます。

有川　亨（串木野RC）	青木　憲治（出水RC）	小松　秀亮（国分RC）	向井　周一（奄美中央RC）

1月 退会報告　おつかれさまでした。

荒武　治実（延岡RC）	ﾏｲｹﾙ･ｲﾝﾃﾞｨｺﾞ（宮崎西RC）	坂本　弘史（宮崎中央RC）	篠崎　和敏（鹿児島南RC）
峯　敏絵（宮崎北RC）	黒木　常義（宮崎中央RC）	三浦　一洋（都城RC）	上野　智博（志布志みなとRC）
吉田　昌史（延岡RC）	長友　久人（宮崎中央RC）	橋口　隆二（指宿RC）	

物故会員　謹んでご冥福をお祈りいたします。

氏　名	クラブ名	享　年	ご逝去日	ロータリー歴
高尾野　勇輝	国分中央RC	41	R3.1.16	3

もっと知っとこ RLI

一人ひとりのリーダーシップを育む、それがRLIです。 RLIの目的

良い指導者のいるクラブでは価値あるプロジェクトに多くの会員が関わり、ロータリアンとしての充実感を体験して、質の高い例会を実践しています。結果として会員を育て、会員基盤を維持し、退会防止に繋がっています。

RLIを受講した会員が多いクラブほど、そのクラブは活性化するといわれています。RLIはトップダウンの縦型指導ではなく、同じ目線での横型のリーダーシップを育みます。すなわち受講者たちはロータリーへの思いを平等に自由に語り合うことで、ロータリーへの知識とモチベーションは確実に高まっていきます。

RLIは、アメリカ・ニュージャージー州から始まりました。 RLIの歴史

RLIは、1992年アメリカ・ニュージャージー州（第7510地区）で、デビット・リンネット元RI理事の提案で始められました。2001年の国際協議会のスピーチでRLIプログラムの話題が取り上げられ、指導力育成の成功談としてRIウェブサイトに掲載されると共に、2002年３月にはRIニュース・バスケットの記事になりました。その後RLIはロータリアンのリーダーシップを啓発する「草の根活動」として自然発生的に全世界へと発展していき、現在では世界の80％近い地区が参加する「多地区合同プログラム」です。日本では、2008年６月に南園義一委員長を中心としてRLI日本支部が発足しました。初期には第2750地区（東京）や第2830地区（八戸）でセミナーを開催しましたが、その後第2710地区（広島）第2770地区（埼玉）第2650地区（京都）第2640地区（大阪）などにも広がり、2020年現在日本支部では、34地区中24地区が参加しており今年中には３地区が参加予定です。

RLIは、ワークショップ形式の、受講者全員が主体的に関わる研修です。 RLIの特徴

RLIの特徴は、研修がワークショップ形式（ディスカッション）で進められることであり、他クラブのロータリアンとの出会いと情報交換の場です。受講者であるロータリアン一人一人がロータリーについて色々な角度から考え、新たな気付きを得る機会です。そこで受講者は色々なクラブが持つ多様性を認め、自クラブを客観的に見つめることで、クラブの新たな可能性を見出すことができるのです。

ディスカッションリーダー（DL）が、受講者たちを温かく見守ります。 DLの役割

ディスカッションリーダー（DL）の役割は、①議論の流れをスムーズにし、②交通整理をおこない、③活発な発言を促します。DLは受講者全員が同じ目線で意見を交わすことが出来るように、ディスカッションを中立公平な立場で温かく見守ります。グループのの受講者が意見を述べる時間を平等に区切ったり、グループ内で意見が出ない時は適宜発言を促したりします。DLは何かを指導するのではなく、受講者の意見や質問に対し、受講者同士で意見を述べあうことをサポートします。このように議論のまとめ役としてディスカッションにかかわることで、DLもまたロータリーへの関心と理解がさらに深まるのです。

熱く語る　想いを述べる　意見を発表する　質問する　共に学ぶ　共に考える

共に「学び→考え→行動する」ロータリアンを育む。それがRLIです。

お知らせ

既に配布しましたガバナー月信2月号（紙面版）に一部誤りがございました。

○P3に掲載の宮崎アカデミーRC認証状伝達式の記事中、親クラブが、
誤）宮崎RC → 正）宮崎中央RC・宮崎南RC
○P6～7に掲載の「ガバナー公式訪問終了の御礼」の中の一覧表のうち、
・鹿児島市内クラブの会員数（男性・女性・合計）
・米山奨学生の世話クラブ・カウンセラーで、
誤）宮崎西（長嶺貴臣） → 正）宮崎北（長嶺貴臣・柳川昌理）
以上の通り訂正いたしますと共に、深くお詫び申し上げます。
なお、地区ホームページに掲載してあります月信2月号のWEB閲覧用、紙面プリント用は修正してございます。

2021-22年度RI会長 シェカール・メーター氏のテーマ講演

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

動画▶　◀PDF